

道

教

組

▶ DOKYOSO NEWS vol.491



新しく北海道の教職員に なられたみなさんへ

道教組第27回定期大会を開催

定期大会の討論から

わたしのとっておき

新しく北海道の教職員になられた皆さんへ 道教組加入をよびかけます

北海道の子どもたちのため、教職員をめざしてきたみなさん。新しい職場で緊張感もあり、日々の教育実践や事務作業で大変な毎日だと思います。

さて、私たち道教組（全北海道教職員組合）は、1990年の組合結成以来、子どもたちの「豊かな学び、学ぶ喜び」を大切にしてきました。そして、すべての教職員が協力共同に努め、同僚を大切にする学校をめざしています。

みなさんに心からの加入をよびかけます。



4月赴任されたみなさん みんなで頑張りましょう！

遠藤 玄（宗谷教組）

この度、北海道へ教職員として赴任されたみなさん、ようこそ北海道へ！心から歓迎いたします。「こんなことをしたいな～」と、希望に満ち溢れた気持ちと、「どんな子どもたちが待っているんだろう？」という不安とが入り交じっているのではないのでしょうか？

私は不安の方が大きかったです。そんな時、一人で悩むことはなく、分会の先生方に手厚くサポートをしていただきました。おかげで毎日を頑張ることができました。人間は一人だけで頑張りぬくことはできません。道教組に所属している先生方は、いつでも力になってくれます。子どもたちのために、ぜひ一緒に頑張っていきましょう！

では普段の疲れをリフレッシュできる企画を実施したいと考えています。それぞれの趣味を生かした企画ができないかということの基本線に、楽しめる場、つながりの場を提供しようと心がけています。2年前から北海道日本ハムファイターズの札幌ドーム観戦ツアーを実施し、リフレッシュできる場となりました。

たくさんの方々にも、このような機会を提供し、皆さんにも広げられたらなあと思っております。

是非興味を持って私たちに声をかけていただけたらなあと思います。



『やりがい』という 確かな価値観

大竹 宏周（空知教組）

十数年前、期待と不安を胸にこの職業に就きました。その時とは教育情勢がめまぐるしく変わっているため、安易に「一緒にがんばりましょう」とか「教職は楽しいよ」とは書けません。

今でも悩み苦しみ、つらいことは多々あります。それは私たちが「子ども」という変化に富む存在を相手にしているから。一筋縄にはいかないが、そこには『やりがい』という確かな価値観があります。「次代を担う原石にどんな力をつけていく必要があるのだろうか？」と考えるだけでワクワクします。

この文を読んで不安をいっそうかき立ててしまったならば申し訳ない。でも教師も子どもも悩んで苦しんで成長します。困った時にともに学び協働できる仲間がいるとそれが力になります。そういう仲間には私たちがなりたい。



楽しめる場、 つながりの場を提供

佐藤 亮樹（檜山教組）

新年度がスタートし、フレッシュな気持ちでこの時期を迎えられている先生が多いのではないのでしょうか。組合青年部では、先生方の人間性を高めるために様々な企画をしています。檜山教職員組合では、毎年春先に『教職員の集い』と題した集会を開催しています。

全国各地から活躍されている講師を招き、明日からの活力をいただいております。また、青年部

道教組第27回定期大会を開催

3月15・16日、札幌市内で道教組第27回定期大会が開催されました。あいさつに立った西野委員長は、道教組運動をとりまく情勢と運動の立脚点を3点にわたり報告しました。梶木書記長は、この1年間を振り返り、道教組運動の総括と今後の方針を提案し、討論のまとめを行いました。

また、全教の北村中央執行委員長、道高教組の山田副委員長、東京海上札幌中央支店長はじめ、御来賓の皆様からご挨拶をいただきました。

2日間で30本の討論があり、困難な中で奮闘する組合員の報告に笑いや共感が起こり、充実した大会になりました。そして、大会では新役員が選出され、大会アピールを採択して2日間の日程を終えました。



来賓の全教北村中央執行委員長

西野執行委員長あいさつ

(一部抜粋)



あいさつする西野執行委員長

全道から本定期大会に参加された皆様、本当にご苦労様です。

この1年、7月の参議院選挙、沖縄・東京などの知事選で、この国の未来をかけた選挙が行われました。その

なかで明らかになったことは、安倍・自公政権の政策と国民の願いとの間に矛盾がひろがり、国民の危機感と平和と安全をもとめる声が高まったということです。

外交面をみれば、前のめりに参加したTPP交渉は行き詰まり、対米経済政策への不安が増大しました。また、諸外国からは特定機密保護法への懸念、安倍首相の靖国神社参拝への抗議、領土問題の硬直的対応が批判され「戦争する国づくり」路線は世界から孤立しています。

さらに安倍首相は、憲法の平和主義に背を向け、はずかしげもなく原爆を世界に売り込み、武器輸出三原則を改悪して軍需産業が武器を売る体制づくりを進めるセールスマンの役目をしています。このことから、安倍政権が大企業の儲けを優先し、

戦争できる国づくりという2つの大きなめあてをもつ政権であることがわかります。

教育の分野でも安倍政権のねらいは一貫しています。大企業に都合のよい人づくりと戦争する人づくりをねらっています。最初の登場で教育基本法と教育三法を改悪しました。今回の登場では法を実行させるため、今年の国会を「教育国会」と位置づけています。

子どもたちのために超勤して頑張ることと、自分自身の生活時間を確保するという相反する課題を正面にすえましょう。問題解決のとりくみを個々人の問題とはせず、社会的課題としてとらえ、教育条件の前進としての教職員の大幅増員と人間らしく働く権利としての長時間勤務解消の運動をすすめましょう。

職場では所属組合の違いと加入の有無を越え、教職員として互いにかかえるしんどさを「聴き取り合い」、健康で子どもたちに向き合うことのできる教職員のつながりを広げましょう。

子どもたちと私たちの生活を多忙化政策から守るため、自覚的に「集まり」「力を合わせる」仲間づくりを地域で広げ、道教組の組織を広げましょう。

本定期大会では、みなさんの実感に基づく討論を大いに深め、生き甲斐と希望に満ちた運動を豊かに語り合おうではありませんか。

道教組定期大会の討論から

日本国憲法と国旗・国歌の授業



越前 秀一代議員
(檜山教組)

6年生社会科の専科をしています。憲法学習は標準6時間あつかいですが、今を生きる子どもたちにこれでは不十分なので、9時間構成で深く学習できるようにしました。

その理由は、毎日のようにニュースで憲法問題があつかわれ、子どもたちに関係しないわけがないからです。

指導者の価値観や思想を押し付けるのではなく、憲法にかかわる複数の価値観を事実として伝え、自分で判断することを留意し学習をすすめました。「9条を考える」と題して国民投票を疑似体験する授業を行いました。改憲派と違憲派に分かれて子どもたちに考えさせ、模擬投票も行いました。憲法9条に対し、改憲派と違憲派の2つに分かれ考えました。改憲派の意見は「何が起きるかわからない時代、憲法をかえて軍隊は持った方が良い」など。違憲派の意見は「この憲法で十分やってきたから、かえる必要はない」などです。そして、その2つの考えを子どもたちが判断し、模擬投票したところ、改憲派に9票、護憲派に23票が入り、自分たちで判断することは国民主権として大事なことなんだと学びました。(その後、国旗・国歌の授業についての報告もありました。)

「教え子を戦場に送らない」決意



鵜野 聖志代議員
(全上川教組)

私は小中併置校の小さな学校にいます。かつて5年生で担任した子が先日、学校に来ました。今、高1なんです。が自衛隊高等工科大学(神奈川県)に行きたかったので受験しましたが不合格になり、地元の普通高校に入りました。

でも、やっぱり高等工科大学を受けたくて、1年後にまた受験し合格したという報告なのです。親や担任を説得し、本人は実際に学校を見学し、(受験の)思いを強くして帰ってきたそうです。

私は、「この子を本当に戦場に送ってはいけないな。どんなことがあってもいけない」と思いました。一つの職業として自分で進路を開拓し、決めたことや礼儀正しい姿勢は立派ですが、ものすごく複雑な思いです。教え子が戦場に行くかもしれない現状があり、この子を戦場に送らないためには、私たちは微力でも頑張ることなのです。

再任用の組合員がこれから大事



小西 博光代議員
(全石狩札幌)

組合に入ってまだ1年。退職者です。この大会に来るのも初めてです。組合は絶対に必要と思い、新卒からすぐ組合に入り、札幌で区の執行委員にもなり、教研活動でも一生懸命組合を支えてきました。退職の時、今までの組合もあるけど、他に頼るものはないかなと思ひ、道教組に入りました。

今までの組合は大きいけれども力にならない、月1回の合同支部会議だけでは物足りなくて、週1回の書記局会議にも顔を出すようになりました。数は少ないけれども、やっていることはそれ以上で、さすがだなあと思います。

道教組は、組合員のこと、子どものことを大事に思っています。再任用をしていると職場の実態も子どもの実態もよく見えるようになり、管理職の悩みも良く分かります。

これから再任用の組合員が大事になります。そのうち再任用部もできるのではないのでしょうか。

子どもの意見が生かされなかった卒業式の合唱



指定討論

境 悠紀子
子どもセンター相談員

ある中学校の卒業担任が、今年は「旅立ちの日に」ではなく「ハレルヤ」を歌いたいと変更提案。その学校では毎年「旅立ちの日に」を歌い、卒業生たちもその歌を歌うものだと思っていました。そのため「旅立ちの日に」を歌いたいと思っていた2名の子どもが署名活動を始め、5クラス中3クラスまで署名が回ったところで卒業担任が知ることになり、ストップがかかり、署名を始めた2人は教師に呼ばれ、叱責されました。この2人が憔悴して家に帰り、父母が知ることになり、めぐりめぐって子どもセンターに相談の電話がきたのです。

その後、署名した50数名の子どもたちが教師に呼ばれ、「めちゃくちゃにする気か」など強く叱責され、1人ひとり「どう思うか」問われたそうです。アシストセンターからも学校に申し入れがあり、親との話し合いがあり、市教委も入りました。

校長から「署名は間違いではなかった」という話がなされましたが、卒業式では子どもの意見が活かされなかったということでした。

小中併置校の養護教諭複数配置を



樋口 雅子特別代議員
(養護教員部長)

今年度は、大規模な小中併置校に養護教諭の複数配置を求めるなどの要求で署名にとりくみ、1万筆を越えることができました。そして、単年度ではありますが、複数配置される学校もあり、うれしいことです。

さて、夏の全国学習交流集会を札幌で開催し、47名もの道教組関係者が参加し、全国の仲間から「北海道は元気がいいね」と言われました。退職した先輩方が現役のために物販活動に汗を流し、「あなた（現役）方は学習してきなさい」と送ってくれたのです。そして、「学び合い、自分の実

践を交流することで力になる」、そしてバックアップしてくれたことがこの全国集会の成功に結び付きました。

最近、組合活動が楽しい



大坪 哲也代議員
(網走教組)

以前は、力のある組合員に支えられ、すぐれた教育実践も多数ありました。最近は、組合員も大きく入れかわり、新しい組合員にかわっています。ここ数年、支部活動が活発化し、組合費の納入率も90%を超えるようになりました。そして、みんなで組合を創っていくという気持ちが高まっています。

教育講座「学ビバ」は、以前ならどこからか講師を呼んでいたのですが、今では組合員1人ひとりの実践を持ち寄り学習できるようになりました。高教組の先生もたくさん参加してくれます。

この3年ほど「子どもたちに本当につけたい学力とは」というテーマで学習しています。組合員との話し合いで一定の結論を得ました。それは「確かな学力」ということです。「与えられるものではなく、自ら学びとるもの」だという押さえです。そして、最近は組合活動が楽しくなってきました。

網走教組が自ら動く組合になってきたからです。非常に魅力的な組合になってきました。

青年部の活動を振り返って



太田 和真代議員
(全上川教組)

昨年、青年部長に選ばれました太田といいます。昨年8月初旬、「オトナの社会見学♡」を実施。檜山教組のファイターズ観戦ツアーと日程を合わせ実施しました。ビール工場見学、夜はファイターズ観戦で楽しく交流しました。全道企画なのでこれからも充実させていきたいと思っています。

2月には全国青年学習交流集会「TANE！」に道教組から3名が参加しました。山梨県で開催され、私は不登校の分科会に参加。それは、自分の小学校に体調不良で登校しぶりの子どもがいるからです。

レポーターの先生は、自分自身が中学校の3年間不登校だった高校の講師の方でした。何で自分が不登校になったか分からないそうです。ただ分かっていることは「学校に行けない、周りの人の期待に応えることができない、他の人と同じことができない」ということです。そのことでずっと苦しんできたそうです。高校の採用試験を受けるたび、面接で不登校のことを聞かれる。まだまだ周りから理解されていないということ話をしました。マニュアル通りではなく、不登校になる子どもの気持ちを分かるように学んでいかなければと思います。

道教組定期大会討論のまとめ



梶木書記長

2日間を通して、指定討論2本を含め全部で30本の討論がありました。そして、昨日、代議員からの質問（「安倍政権の暴走には、否定的な側面ばかりではないのではないか」）に対して、討論の中でそれに答えるような青年からの発言があり、

深められたことが良かったと思います。執行部としても、この質問をしっかりと受け止め、はじめに答えます。

確かに、東京都知事選で田母神候補への20、30代の得票は、他の候補者に比べて圧倒的に多かったのは事実です。この背景として考えられることは、青年は、雇用問題をはじめとした今おかれている状況について「何とかしたい」というエネルギーを持っており、それらの解決に向け「政治の問題」として捉えられておらず、「自己責任」だと思わされる新自由主義政策の中で育ってきたと

いう問題があります。

さらに、候補者の政策や考えを知るのが、ネットや一部のマスコミなど、情報が閉ざされている環境にあり、情報を主体的・批判的に取り入れる力（メディア・リテラシー）の弱まりも起因していると考えられます。

一方、時事通信社の3月上旬実施の世論調査では、前回より内閣支持率が5.6ポイント減って48.1%と出ています。12月の秘密保護法成立時の調査結果47.1%に次ぐ低さです。ですから、全体としては、安倍政権の暴走に反対の声が多くなっていると言えると思います。

討論全体を通して、学力・体力テストや「君が代」指導にまつわる実態がたくさん話されました。その厳しい状況の中でも、波にのめられない、知恵と工夫とねばりのある実践が報告されました。憲法問題、学力問題を真っ正面から教育実践で勝負する姿も特徴的でした。

組織拡大・強化については、自分の経験が多く語られました。学校現場で起きている問題についてよりいっそう同僚との語り合いが必要です。そのとりくみを通して、この春、道教組を強く、大きくしていきましょう。

選出された2014年度道教組役員

役職	氏名	所属	職場
執行委員長	西野 誠	全上川	比布中央小
執行副委員長	新保 裕		道教組
	齋藤 秀昭	空 知	ゆうばり小
	八木 博	宗 谷	稚内東小
書記長	梶木 康展	網 走	北見小泉小
書記次長	中山 晴生	檜 山	江差南が丘小
	古川 晃男(新)	全釧路	釧路町宮原小
執行委員	中山 裕一	根 室	根室厚床中
	内藤 修司	宗 谷	稚内東小
監査委員	秋山みゆき	全石札	札幌米里中
	川村 安浩	空 知	滝川第一小
	白鳥 克己(新)	全胆振	白老白翔中

「ストップ安倍政権 守ろう地域と憲法」

3・22釧根学習総決起集会

全釧路教組 高橋 浩之

3月22日、釧路市まなぼつとで「ストップ安倍政権 守ろう地域と憲法」3・22釧根学習総決起集会が開催されました。

釧根地方では、前日、記録的な大雪となり、根室では1mを越える降雪量になったため、この日も「まだ道路が開いていない」「国道まで出られない」という方々も多かったのですが、60名ほどの参加者が集いました。

しかし、講師の今重一弁護士からは、「この69年間、日本は戦争をしてこなかった。しかし、戦争をする危険性はなかったわけではない。戦後の徹底した平和主義・民主主義・分権主義が戦争をさせなかった」と説明し、今の安倍政権がまさに「戦争できる国」へ変えようとしていることを話されました。

今弁護士の後には、各団体から地域と憲法を守ろうという発言がありました。

教育の問題について、全釧路教組委員長、根室教組委員長から発言がありました。子どもたちを競争と選別で追い立てている今の現状や教育委員会制度そのものを壊そうとしている動きなどの発言がありました。また、どんどん年金が削られているという年金者組合の方の訴えや消費税が8%になるという問題を切実に感じている民商の方からの発言もありました。どの方々からも、今の安倍政権の向かう先の危険性を訴えていました。



講師の今重一弁護士

最後に決議文を採択し、集会を終えました。

編集後記

おかげさまで、道教組の定期大会が終わりました。3月中旬という、学校では休む間も惜しんで年度末業務に追われている時期。代議員を招集するのも気が引けます。

しかし、ある代議員の発言にもあったように、「3月、ここに集まるということが奇跡」、同感です。参加者の表情は明るく、まさしく「臨む」の言葉がふさわしい。これは、なぜなのか。

2日間の大会を通して、その理由が分かりました。それは、「たたかっているから」。その一言に尽きます。学力テスト、日の丸・君が代、賃金、人事・・・と、教育環境や労働条件の厳しい状況が続いていますが、道教組組合員の知恵と工夫による創造と抵抗が、代議員の発言から多く読み取ることができました。

大会後、小学校では卒業式が行われ、道教委の「7・24通知」により、これまで各学校でつくってきた卒業式が、大きく様変わりしました。

私も卒業式を見てきました。その学校では、これまで卒業証書授与を体育館中央で行ってきまし

た。

しかし、「7・24通知」により、今年の証書授与はステージで行うことを余儀なくされました。この変更をめぐって、職員間の話し合いはとても厳しいものがあつたそうです。

今年の卒業式には、「証書を授与する儀式」に力点を移そうとする政治的力が大きく作用しました。私たち教職員は、卒業式を子どもたちへの最後の授業として、創造的に努力してきました。子どもたちにこれまでの学校生活を振り返らせ、成長を確かめ合い、次なるステップへの希望を抱かせ送り出していく。それが卒業という節目を歩ませる教職員の営みならず、そこには、その地域、学校の歴史や文化など、通知1枚で右ならえにはならない実態があります。

教育委員会による強制が学校現場に混乱と対立を生むということは、あってはならないことであり、とても残念なことです。よりいっそう、教育委員会との対話が重要になります。(榎木)

わたしのとっておき

“とっておき”の写真・絵・短歌・川柳など紙面で紹介できる作品募集。頁下メールアドレスへご連絡を。



「スライム大好き!」

独特の感触、ひんやりした感じ、変形自由なスライム。材料(洗濯糊、硼砂)さえあれば手軽に作れて楽しむことができます。

【和田 朗(北見支援学校)】



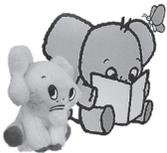
「つながり(手作り絵本)」

この写真は、手作り絵本です。私の妻が、昔、受け持っていた子どもの親から、私の孫にプレゼントされたものです。フェルトを使って手縫いで作られ、ぬくもりのある手作り絵本です。つながって大切だなあと、改めて感じています。

【大坪 哲也(北見西小学校)】

全教自動車保険

平成26年1月より大口割引5%導入のお知らせ



小納谷部長
(川上企画)



雪解けが進み、自転車通勤の社会人や高校生が増え、運転者にとって危険な季節となってきました。歩道だけでなく車道を走る自転車の安全確認を十分行ってください。

提携 東京海上日動火災保険株式会社

全教自動車保険加入にあたっての5つの特長

- ①無事故割引を他の保険会社や一部の共済から引き継ぎます
- ②保険料は給料引去または口座振替
- ③ご家族の車でも、何台でも加入OK
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

手続き

カンタン

自動車保険、マスト、がん保険の問い合わせ先
有限会社 川上企画 (道教組指定代理店)

札幌市中央区南大通西12丁目4-78 ウェスト12 1階
 フリーダイヤル 0120-222-789 FAX 011-218-2472

道教組

2014年4月1日発行

発行 全北海道教職員組合 発行者 西野 誠 〒060-0909札幌市東区北9条東1丁目 北海道労働センター内

TEL(011)742-0101 FAX(011)742-1001 メールアドレス dokyoso@seagreen.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.dokyoso.net>